

平成25年度 芸術鑑賞会を実施しました

1. 日時 :6月18日 (火) 13:30開演
2. 場所 :県民文化センター大ホール
3. 演目 :劇団芸優座 『アंकルトムの小屋の灯に』



劇団芸優座について

劇団芸優座は、青少年にだからこそ最高の演劇を見せたい」という理念のもと、1972年新宿四谷にて創立されました。以来、全国のホール、会館をはじめとする公文協の自主事業、文化庁の助成公演、教育委員会、小・中・高等学校の芸術鑑賞教室等での公演を、演劇は、まず面白く、確かなテーマで観客と共に創造する」をモットーに精力的に活動を続けています。

1998年、稽古場・事務所を緑豊かな調布市多摩川に設置し、18歳から78歳までの各世代に渡る劇団員、研究生およそ60名が共に日夜研鑽に励んでいます。

既に4000ステージを越え、絶大なるご好評に応え続演記録を更新中の「ベニスの商人」「天狗山のトロップ」をはじめ、最新作「The Last Leaf-最後の一葉」まで、11作品を展開しています。劇団芸優座の今後の活動に、どうぞご注目ください。

演劇 :アंकルトムの小屋の灯に

～ STORY ～

奴隷制をめぐってアメリカを真っ二つに分けた南北戦争は、リンカーン大統領の奴隷解放宣言をもって1865年に終結しましたが、1851年に発表されたストウ夫人の小説『アंकル・トムの小屋』は、そのきっかけになったとさえ言われています。しかし、作者のストウ夫人については、その名前ほど知られていないようです。劇団芸優座の「アंकルトムの小屋の灯に」は、小説『アंकル・トムの小屋』の名場面を織り込みながら、ストウ夫人の半生を描きます。

舞台は19世紀のアメリカ、奴隷制の時代。当時は、アメリカとて女は結婚し、家事や育児に専念するものとされ、社会の悪に対しては無知であるべきと言われた時代でした。ハリエット・ストウもまた、ごく平凡な女性として暮らしていました。それが何故、奴隷制と真っ向から取り組み、このような歴史的小説を書くことになったのか…。

まずストウ家に起きた、悲しい事件から話を始めなければなりません。

この作品では『アंकル・トムの小屋』に脈々と流れる、人間が人間を差別するという事の愚かさ、悲しさ、恐ろしさと同時に、ハリエットのように、悲しみや絶望感、無力感から逃げる事無く、むしろ、その全てを引き受けて、そこから人類全ての為に働く

事を思いつく、その力強さ、素晴らしさ、勇気を主張しています。

『アンクル・トム的小屋』の朗読会で、精力的にアメリカ各地を回っていたストウ夫人も、今年で60歳。とうとう最後の町にやって来ました。そこで彼女は、いつものように朗読を始めます。

トムは最初、親切で心優しい主人の元で幸せに暮らしていました。ところが、事業に失敗して借金を抱えてしまった主人は、泣く泣くトムを売るしかなくなりました。息子のジョージ坊ちゃまは、いつかきっと、トムを迎えに行くと約束しました。でも、それからトムの辛く、悲しい、黒人奴隷としての毎日が始まったのです。その話をしながらストウ夫人は、『アンクル・トム的小屋』の題材となった過去の様々な出来事を、懐かしく思い出すのでした。

まだ結婚したばかりの頃、彼女の書いた恋愛小説が好評で、雑誌編集記者が台所に押しかけて来て、必死に料理を手伝いまでしながら、口述筆記をしていったこと。お手伝いとして雇った黒人の少女が、実は逃げ出して来た奴隷で、彼女を探し回っている主人の目から隠す為に、白人の娘の格好をさせて逃がしてやったこと。でも、本当にこの小説を書かせたのは、彼女の身の上で起こったある悲しい事件でした。

それは、末っ子のチャーリーが生まれてまだ間もない頃、夫のストウ氏が、病気の療養のために、家を留守にしていた時のことです。

町中に蔓延したコレラが、遂にストウ家にまで忍び寄って来て……………。

公演の様様



今回は、本校初の試み、「生徒参加型」の舞台ということで、楽しみにしていました。

キャストとして出演した生徒の朗読シーン。本物の女優さんかと思うほど上手な朗読でした。



主人公、ストウ夫人が回想のなかで語る『アンクルトムの小屋』のワンシーン。トムは、愛する妻や、優しい坊ちゃんと離ればなれになることに……………。トムにはこのあと、悲しい運命に翻弄されることになります。



愛する息子を病で失い、生きる気力を失うストウ夫人ですが、黒人奴隷たちの悲慘な境遇を目の当たりにし、再び「奴隷解放」という夢に向かって立ち上がります。



新しい雇い主の暴力により、生死の淵をさまようトムのもとに、かつてトムを慕ってくれた坊ちゃんが立派に成長して迎えに来ます。しかし、再開の喜びもつかの間、トムは静かに、その生涯に幕を閉じたのでした。



生徒会からの御礼の言葉と、花束贈呈です。
芸優座のみなさん、本当に素晴らしい舞台を上演して頂き、ありがとうございました。
また、本校の生徒4名をキャストとして出演させていただくために、事前の打ち合わせや演技指導などをして頂きました。
おかげで、生徒たちも、貴重な経験をすることができました。
また芸優座のみなさんの舞台を観ることができる日を楽しみにしています。



フィナーレ！芸優座のみなさん，ありがとうございました。